

被害と 加害がおり重なる 戦争の記憶

昨年は、ドイツ・ベルリンの「戦争(加害)を記憶する」という努力と工夫を取りあげ、ドイツ現地での写真を含めご紹介しました。

今年は、一步進めて、日本では戦争(加害)の記憶を、地域の人々がどのように捉え、残そうとしているか、ルポライター室田氏の戦争の記憶取材からお話いただき、新たな気づきを得たいと思います。



むろた もとみ

講師 室田 元美 氏

プロフィール

1960年兵庫県神戸市生まれ。東京都在住。女性雑誌記者や FM ラジオ番組構成を経て、2005年頃から「いましか聞けない」と考え、戦争体験者や戦跡についての取材、執筆を始める。

著書に『ルポ 悼みの列島—あの日、日本のどこかで』(第16回平和・協同ジャーナリスト基金賞 奨励賞受賞)、『ルポ 土地の記憶—戦争の傷痕は語り続ける』(ともに社会評論社)、『いま、話したいこと—東アジアの若者たちの歴史対話と交流—』(子どもの未来社ブックレット)。

共著に『戦争のつくりかた』(マガジンハウス)、『若者から若者への手紙 1945←2015』(ころから)他。

8月17日(土)
13:30~15:30

会場:福生市公民館 4・5集会室
(JR 青梅線牛浜駅下車 徒歩5分)

申込み:8月4日(日)午前9時から
福生市公民館
042-552-2118へ

※当日直接も可

定員:40名

共催:福生市公民館・ドイツ平和村をサポートする会